

## 始めよう！関西から～まち、ひと、しごと、私の日本創生戦略

鳴門教育大学 2年 中塚結

昨今のニュースでたびたび取り上げられる「ブラック企業」「いじめ」「虐待」などの話題に触れるにつけ、現代の日本人が日々様々な問題の中で奮闘しながら生活していることを実感する。そんなネガティブな現状を打破し、日本で暮らす人々がいきいきと過ごすためには、「笑うこと」が効果的であり、それにより明るい日本が創生されると考える。「笑い」を日本に広げるには、大阪の「笑いの文化」を活用し、大阪から笑いを発信するべきである。

私の出身地である大阪府は、時に「笑いの聖地」と呼ばれる。ウェブサイト「進路のミカタ」の記事<sup>1</sup>によると、その歴史は戦国時代まで遡るといふ。16世紀後半の戦国時代に、将軍や殿様にとんちを利かせた面白い話を聞かせ楽しませる御伽衆と呼ばれる文化人が存在し、その笑い話が現在の落語の始まりとされているらしい。その後、庶民の娯楽として発展を続けた落語は、京都・大阪では神社の境内や河原などの屋外で行われる「上方落語」として、江戸では座敷の芸能「江戸落語」として、それぞれ発展していったそうである。上方では料金を後払いするため、落語家は道行く人を最後まで面白い話で引き止めなくてはならず、笑わせた者勝ち精神の貪欲さが上方の笑いへのこだわりにつながっているとされている。また、多くのお笑いスターを輩出し、今もなおお茶の間に愛される「吉本新喜劇」のテレビ中継を始めた「吉本興業」の存在も、大阪の笑いの文化に大きな影響を与えていると述べられている。このような長い歴史の中で大阪は笑いの文化を確立していったのである。

それでは、なぜ笑うことが日本創生に繋がるのか。「笑う門に福来る」という言葉があるように、笑うことと幸福は密接に結びついている。実際に私自身も、落ち込むことがあっても友人と楽しい話題で笑うことでその気持ちが軽くなるということを経験してきた。他にも、週刊朝日の記事<sup>2</sup>によると、笑うことで免疫力の向上が望めたり、円滑な人間関係を築くためのコミュニケーションツールとして活用できたりすることが様々な研究で明らかになっているという。人間には、他者の表情を見ているとき、自分が見ている表情と同じパターンの表情筋の動かし方をする特徴があることがわかっているそうである。つまり、表情は伝染するのである。様々な効果がある笑顔が伝染していくことで、日本中

---

<sup>1</sup> 「大阪が“笑いの聖地”と呼ばれる理由とは？ 上方落語、吉本興業に見る笑いの歴史」進路のミカタ、2016年9月2日（提供:マイナビ進学編集部）

<https://mikata.shingaku.mynavi.jp/article/24193/>（最終閲覧日:2018年5月28日）

<sup>2</sup> 「健康寿命を延ばすカギは前頭葉にあった！「ご機嫌脳」のつくり方」『週刊朝日』2017年1月27日号、朝日新聞出版、pp.124

に笑顔が溢れ、日本が抱える問題は解決していくと私は考える。

私は現在、教員になるべく教育大学に通い、教職や教育について学ぶ中で、笑顔や笑いを生み出す教育像をおぼろげながらイメージできるようになってきた。それは、笑いの聖地・大阪で培った、笑いに対する意識を十分に取り入れた「笑いの教育」を実施することである。笑いを生み出すことに重きを置いた教育現場で育った子供が親に笑いを伝染させることで日本人の心が豊かになり、冒頭で述べたような日本が抱える問題が軽減されることが日本創生につながると考えるからである。ただ、お笑いコンビ「オシエルズ」の矢島伸夫氏<sup>3</sup>は、「笑いは両刃の剣である」と述べている。氏は、笑いは多くの両義性を持っており、特に教育現場で疎まれやすい性質として【協調⇔対立】、【創造⇔破壊】、【更生⇔墮落】の3つを挙げている。そして、笑いを適切な用法で教育に取り入れることが大切であると訴えている。そのため、教員の事前の綿密な授業計画が必要である。漫才のネタがそうであるように、教員もどのような話をすれば子供が笑うのか、いわゆる授業のオチを計算し尽くさなければならない。また、「冷笑」「嘲笑」という言葉があるように、笑いは時に人を傷つけるものになり得る。笑いを正しく理解し、それを活用できる教員の育成が必要である。教員になるための教員採用試験でユーモア度を量る試験を課したり、教育機関とお笑い芸人養成所とが提携することで、教員の笑いのセンスを高める訓練をしたりすることができれば笑いの教育ができる教員育成が望めると思う。この教員養成には笑いの聖地と謳われる大阪が力を入れるべきであり、笑うことを大切にしている大阪でこそ発信できるものである。

---

<sup>3</sup> 矢島伸夫 (2013) 「学校教育における望ましい笑いとは何か―笑いの両義性を中心に―」『笑い学研究』20、pp.83-95、日本笑い学会